

の位置に在らしむることに就ては最も至大の注意を要するものなりとす。

適當なる位置を撰定し得たらば先づ其坐金を隔壁其他に螺子を以て假りに取付け、水銀晴雨計を靜かに函内より取出し蝶番を有する金屬製腕金を開き其曲りたる一端を坐金に嵌入したる後坐金を充分に螺定すべし、此の如く器を垂直の位置に安置すれば管内の水銀は漸次下降し約一時間の後には示度を概測し得るに至るべし、然れども精確なる示高は尙數時間沈降靜止の餘裕を與へたる後にあらざれば觀測すること難し。

垂直の位置に掲ぐるも尙管内の水銀容易に下降せざることあり、斯るときは器の下端を靜かに敲くか、若くは輪環に

於て僅かに動搖せしむれば爲めに管内の水銀は震動に依りて少しく昇降し其下降を速かならしむべし、斯くして尙ほ奏効せざるときは漸次輕觸又は震動の度を増すべし、然れども決して強打激震を與ふべからず。

水銀晴雨計
運搬に關する
注意

第六節 水銀晴雨計運搬に關する注意

水銀晴雨計取扱上の一端として其荷造及運搬に關する注意を略述するも亦敢て無用の業ならざるべし、即ち先づ水銀晴雨計を其座より取外し最も靜かに傾斜すれば壺内の水銀は徐ろに管頂に昇上し遂に管内を充すに至るべし、但し此際水銀の激動は管の上端を破壊するの虞あるを以て充分の注意を要す、斯くて後之を適當なる函内に横へ空所

は悉く鋸屑又は紙切等を以て填隙し直接函の内側に接觸せざるやうにし一切の屬具をも收めたる後蓋を蔽ふべし、但し蓋板は必ず螺子を以て固定し決して釘付けとなすべからず、又運搬の際は壺の在る部分を上方にするか若くは水平の位置に保持して特に激動を與へざるやう注意を要す。

空盒晴雨計の構造

第七節 空盒晴雨計の構造

「アネロイド」晴雨計一名空盒晴雨計は其形狀恰も時計の如く計標牌に於ける指針の回轉に依りて容易に其示度を測知するを得る装置にして此の晴雨計も亦水銀晴雨計に於ける原理と更に異なる所なく、唯水銀に代ふるに波狀をなせ

る日耳曼銀にて作れる二個の平圓板を蠟着けして作れる無氣函を以てし其内部に同じく金屬製發條を裝置して函の上下兩面が空氣の壓迫を受くるも全然壓着せられずしてよく其抵抗を助くるの用に供ふ、而して計標牌面に回轉すべき指針は軸、横杆及發條を以て此無氣函に接續す、故に大氣壓力の増減に従ひ無氣函の膨脹收縮を起し其變化は發條に、發條は之を横杆に、横杆は之を軸に遞次其働作を傳へて遂に指針を回轉するに至るものなり。

空盒晴雨計は其構造の強固なると形狀の取扱に便なると其働作の敏活なる等の諸點に於て水銀晴雨計に優るのみならず特に船體動搖するとき際しても容易に正確なる觀測を爲し得るを以て現今航海用として専ら賞用せらる、

而して之を備へ付くべき方法、位置の撰定等も亦頗る簡易にして光線、火氣の直射、過度なる空氣の疏通、溫度の激變等の起り易き所を除くの外机上、函内若しくは隔壁等便宜の場所に定置するを得べし、然れども學術的器具としては到底水銀晴雨計の精確なるに及ぶべくもあらず、殊に其主要部分を構成する金屬の蝕蝕消磨等より誤差を生ずることあるを以て時々信頼すべき水銀晴雨計と比較するを要す而して之をなすに當りては直立、水平の兩位置に於てすべし。

器の底面には深く螺入したる螺子を備ふるを以て誤差を矯正せんが爲には回螺器を使用して此の螺子を靜かに右轉若しくは左轉すれば容易に指針を回轉し誤差を矯正す

ることを得べし。

空盒晴雨計は輕便なるが故に陸上に於て山岳の高底を測量するに使用す、但し此種のもの是指針の示度に比例すべき海面上の高さを計標劃線の内側に呷を以て刻みあるものなり。

晴雨計は其何れの種類を問はず天候卜知に關する唯一の器具たることは疑ふべからざる事實なれども其示度にのみ信頼するは戒むべきことなり、宜しく風位、風力、波浪の状況、雲の去來及各地方特殊の現象、海水、空氣の溫度等をも併せて測知考量すべきことを忘るべからず、又寒暖計の高底は晴雨計の示高と多大の關係を有するのみならず其標準示高と比較するに當りても必要なれば晴雨計を觀測する

ときは其都度同器附屬の寒暖計をも測知することを怠るべからず。

航海術測器詳解下巻畢
教科書

明治四十三年一月廿一日印刷
明治四十三年一月二十日發行

（航海術測器詳解下巻）
定 價 金 壹 圓



著者	萩野道二
著者	小堀正男
發行者	大橋新太郎
印刷者	石川金太郎
印刷所	株式會社 英舍

東京市日本橋區本町三丁目八番地
東京市京橋區西紺屋町二十六七番地
東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

發行所

（振替貯金口座）
東京二四〇番

博文館

東京市日本橋區本町三丁目

著共 君男正堀小 君二道野萩 船長

航海術測器詳解卷上

洋裝菊判上製美本
正金壹圓
小包料金八錢

内容

- 第一章 羅針儀
 - 羅針儀の種類(同構造及部分の名稱)○方位環○液體入羅針儀○トムソン式羅針儀○方位鏡○同使
 - 針儀の構造に關する注意外一項
- 第二章 測程器
 - 手用測程器の構造○測程索一節の長さを算出する法○新らしき測程索に簡標を附する法○測程法○手用測程器の誤差○誤差ある測程器に依りて得たる航程の改算法○機械測程器
- 第三章 測深器
 - 機械測程器の誤差○機械測程器に關する注意○海底測程器
 - 測深器の種類(手用測深器の構造)○同使用法○深海測深器の構造○同使用法○測深に依る船舶所在位置推定法○深海測深器械○ロッド、ケルビン式深海測深器械の構造、動作、部分の名稱外四節
- 第四章 羅針儀誤差の解明
 - 偏差○自差○地方的感應(自差の變化)○自差測定の必要○自差測定法○遠體方位法外四節
- 第五章 海圖
 - 常用海圖の種類○平面圖○湖長圖○海圖使用心得○海圖の使用法
- 第六章 並行定規
 - 並行定規○度回轉並行定規
- 第七章 分度儀
 - 構造○使用

發兌元

東京市日本橋區本町三丁目
振替貯金口座東京二四〇番

博文館

士學理 著君郎治傳藤須

星

學

星學は最も趣味ある學科なりと雖も其學理の幽玄高尚なる未だ平易にして一般人士に適するの著書なく隨て世人の天文に通ぜざるは、豈我學界の一大缺點にあらずや、本書は須藤理學士が多年大學にありて斯學を專攻するの餘暇、之を歐米諸學者の説に鑑み傍ら創見を加へて編著せられたるものにして挿圖無慮百十數以て一讀星學の樞機に通ぜしむべし

全一冊洋裝菊判紙數三百三十二頁
正價金四拾錢
特製金五拾五錢
郵稅八錢
小包

士學理 著君松武田岡

近世氣象學

氣象學は趣味深く應用弘き學術にして地學、航海術、工學、水産學、衛生學等の學術を修め或は實地に活用せんと欲する人は少くとも斯學の大體に通ぜざるべからず、本書は此目的を達せんが爲めに平易を旨とし簡明に編せしものなり故に一讀斯學の根底を會得するに難からず氣象學を學ばんと欲する人は勿論實業家並に教員諸君の好參考書と云ふべし

全一冊洋裝菊判三百卅八頁
正價金四拾錢
特製金五拾五錢
郵稅八錢
小包

館文博

東京市日本橋區本町三丁目
振替貯金口座東京二四〇番

發兌元

士 學 理
著 君 藏 直 戸 一

高等天文學

天文學は吾等が日常目撃する太陽、太陰、惑星、衛星、彗星、流星、恒星等の天體に就て研究する一科學にして其範圍極めて廣し故に之を研究するに近時數種の部分を立てり、第一本書は彗に出版せし須藤學士の星學を讀みたる後更に進て斯道の奥義を研究せんとする人の資料に供する爲め是等の分類を追はず、自然的方法に依り漸次天體の視運動及び實運動に關する法則を究め、更に運動を起す原因を究め、第二、是等天體の形状の大小質量等を測定し、第三、是等の理學的性質及成分等を研究し、第四是等天體の關係を講究する等實に遺漏なく説明せられたり。

全一冊洋裝菊判紙數三百廿二頁
正價 金四拾錢
特價 金五拾五錢
郵稅 八錢

士 博 學 理
述 講 君 郎 次 又 山 横

天文學叢話

○世界の創造、(原始創造說、神託創造說、進化創造說、星霧說、物質並にエネルギーに關する說、原子說、物質及びエネルギーの不滅則、分光器上の發見、波動說と凝集說、光の電磁氣說、微塵子說、光の反撥力、生物原子及衆生世界の進化、潮流的作用、宇宙の不老不死あること、死變じて生となること、星霧の冷きものなること、太陽系の進化、○海狗島(總記、地質、氣候、植物、動物、密獵船の歴史)○余が寄航(海歌に關する愚見)○何故に土地によつて人口に疎密あるか○科學雜談(金華山沖の怪火、山登りの人體に及ぼす影響、鳴響山)

全一冊洋裝菊判紙數二百四十二頁
正價 金四拾錢
郵稅 六錢

館 文 博 日 丁 三 町 本 區 橋 本 日 市 京 東 番 〇 四 二 京 東 座 口 金 貯 替 振 元 兌 發

士 學 理
著 君 彦 弟 田 吉

地 文 學

▲總論▲第一編 地球星學○地球の成因○太陽系○地球の形状及大さ○地球比重の測定○地球の重力の測定○地球内部の状態○地磁器○地球の運動○緯度○晝夜の長短○四季及五帶○日蝕及月蝕○地圖▲第二編 氣象學○大氣○氣温○大氣中の水分○氣圈に於ける光の現象○天氣及氣候▲第三編 海洋學○海の分布○海水の性質○海水の温度○海泉○海底○海水運動▲第四編 陸地學○陸地の分布○陸地を構成する石○地史原統○地の配置○種類○平原及臺地○山嶺及溪谷○河川○海岸線○陸海の變動▲第五編 生物學○生物の分布○生物の移動及變動○地球上に於ける人類○位置○日本の文明と天然の關係○地球上人種の分布

全一冊洋裝菊判紙數三百廿八頁
正價 金四拾錢
特價 金五拾五錢
郵稅 八錢

論 教 校 學 範 師 縣 島 兒 鹿
著 君 藏 紋 倉 田

地 文 學 要 解

地文學は或る意味に於て地理學の總論なり、故に地理學を研究せんとする人は、地理學を併修せざるべからず、然れども其學や極めて難解なることは學生諸子の熟知する所に於て、毎年特に試験季節に於て難解苦悶の聲を聞かざるはなし是れ本書の出づる所以なり、本書は地文學の概要を表面的比較的に編成し學生をして概念を作るに便ならしめたり、殊に附録には最近三年間各官立學校地文科入學試験問題に詳密なる擬答を付し斯學受験者の參考に資せり

全一冊洋裝菊判紙數二百六十八頁
正價 金廿貳錢
郵稅 四錢

館 文 博 日 丁 三 町 本 區 橋 本 日 市 京 東 番 〇 四 二 京 東 座 口 金 貯 替 振 元 兌 發

理學士 福井政一君著

普通物理學

物理學は科學の主腦を制するものにして其智識は一部専門家の間に得らるゝを以て足れりとせず、社會一般を通じて必須の學問なれば特に普通にして、高等なる學理を説明せる書籍の存在するは單に學問の爲のみならず、人類生活の需用に値すること實に多大なり本書は故鶴田理學士の遺稿によりて更に福井理學士の訂正増補によりて之を統一し、博く普通物理學の新智識新材料を世の研究者に頒つ説述懇到挿圖數百蓋し物理學書の精冊といふべし

全二冊洋裝菊判紙數六百三十頁
並製金四拾錢
一特製金五拾五錢
八郵稅
八小包錢

理學士 青葉新六君著
工學士 岡新六君著

中等物理學講義

科學の垂は多く硬澁にして而かも簡短なるが常なり中學生若くは獨學者は之が爲めに無用の腦漿を絞り研究に苦むこと少なからず殊に物理學化學の書に於て多く之を見る本書の記述は大に其點に注意し主として程度を早近に取り平易明確に説明を力めたり且つ實地應用の力を養ふ爲めに理論の後に模範となるべき例題を附し其解法をも示し圖畫の多くは著者が自ら描きしものにして一見理論の研究に便なるため密畫投影器を省きて断面圖となせり此等微細の注意を以て本篇を作成せしもの從來其例なきなり中學生及獨習生の爲めに最上無二の良講義書と謂ふべし

全一冊四六判紙數八百頁
正價壹圓五拾錢
八郵稅
八小包錢

理學博士 高木貞治君著

新撰算術

世に算術の書夥多ありと雖ども其多くは西洋算術書の翻譯に止り然らざるものは單に機械的に數を説明するに過ぎず本書は筆を整數に起して分數、零根、無理數量及其測定に説き及ぼし結論として負數虛數に筆を擱く其間の説明立論精緻確實而も文字は平易流暢一讀の下にアリスメチックの原理を了會するを得、數の性質は其冊子の内に説き悉されて餘蘊なし。

全一冊洋裝菊判紙數三百六十頁
正價金四拾錢
八郵稅
八小包錢
特製金五拾五錢

理學博士 高木貞治君著 ●新式算術講義

全一冊菊判總布上製紙數四百七十頁
小包價金八錢

片山清謙君合著 ●理論普通算術

全一冊四六判並製紙數三百九十八頁
正價金參拾錢
八郵稅

理學士 松村定次郎君著 ●算術難問解義

全一冊四六判厚表紙紙數百九十八頁
正價金參拾八錢
八郵稅

發兌元 東京市橋本區本町三丁目 日本圖書公司 東京市橋本區本町三丁目 日本圖書公司

博文館

發兌元 東京市橋本區本町三丁目 日本圖書公司 東京市橋本區本町三丁目 日本圖書公司

博文館

32-32

理學博士 高木貞治君著

新撰代數學

全一冊 洋裝菊判紙數三百四頁
並裝菊判紙數三百四頁
正價 金四拾錢
特價 金五拾五錢
小包 八錢

代數學に於ける研究の主眼は數の値に關係する者にあらずして寧ろ數の算法に在りとす本書は整數の觀念並に四則算法を支配する根原的法則を敘述して讀者の記憶を新にし以て新研究の地を成さんことを企圖す即ち筆を代數學の原則に起して有數函數方程式の根、整函數の有理分解、多元整函數、對稱式論、デルミナント、二次方程式論及び三次及四次方程式解方に擲筆す立論證明の精緻確實なる洵に類書中の一頭地を抜くもの實に數學家の要書也

理學士 松村定次郎君著

●代數學難問解義

全一冊 四六判美本 紙數四百三十二頁
正價 金六拾錢
郵稅 金六錢

理學士 松村定次郎君著

●平面幾何學難問解義

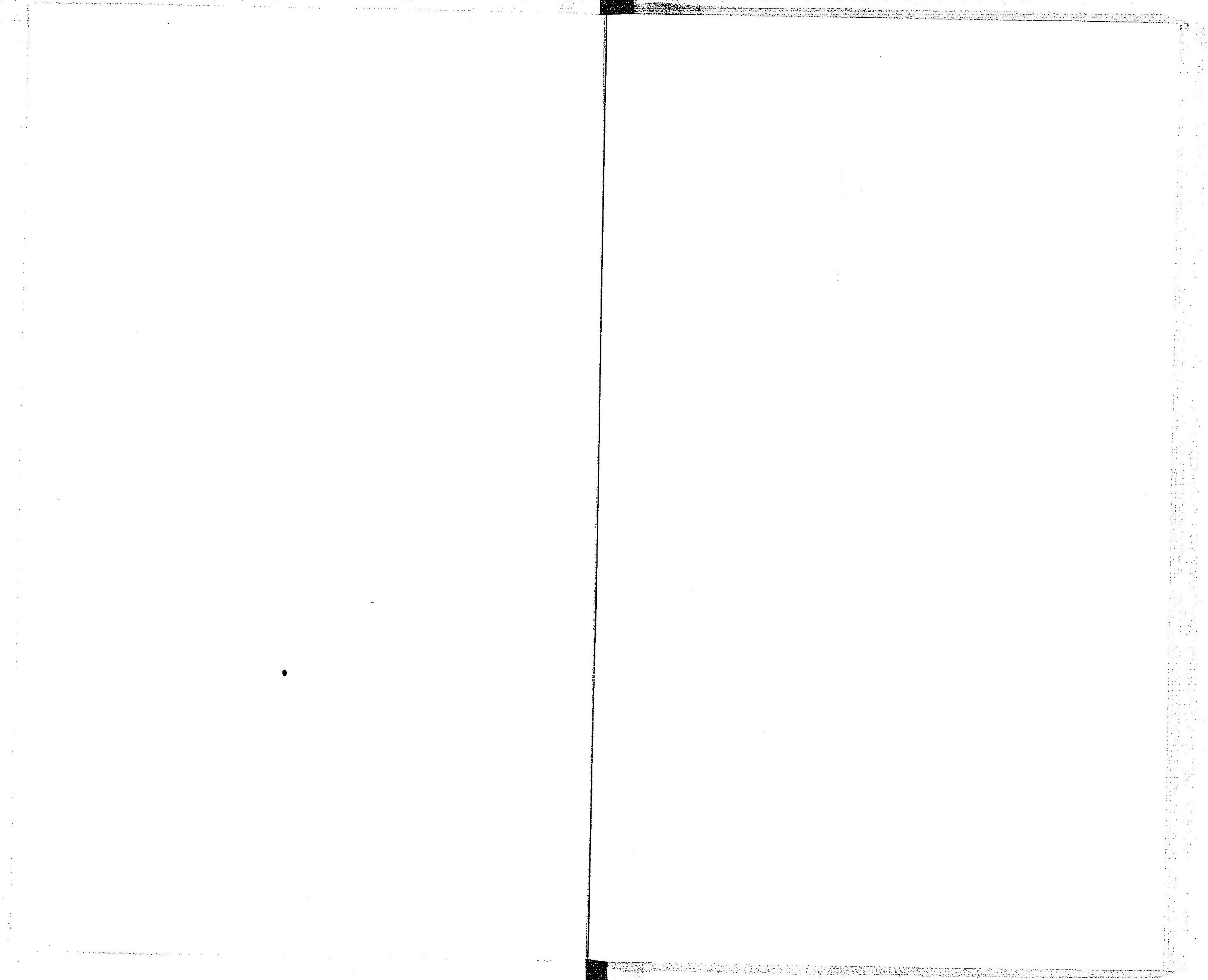
全一冊 四六判美本 紙數三百四十六頁
正價 金七拾五錢
郵稅 金六錢

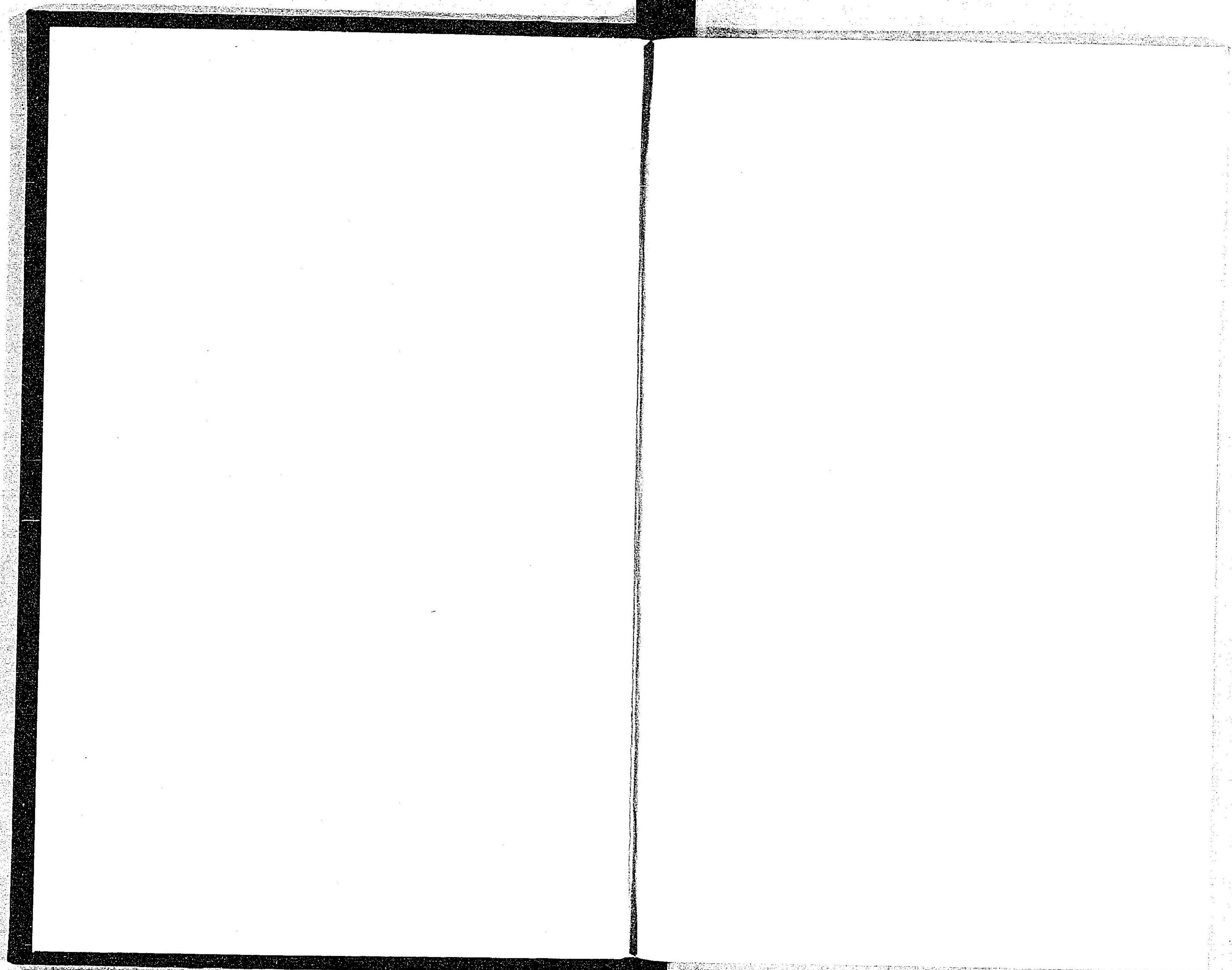
理學士 松村定次郎君著

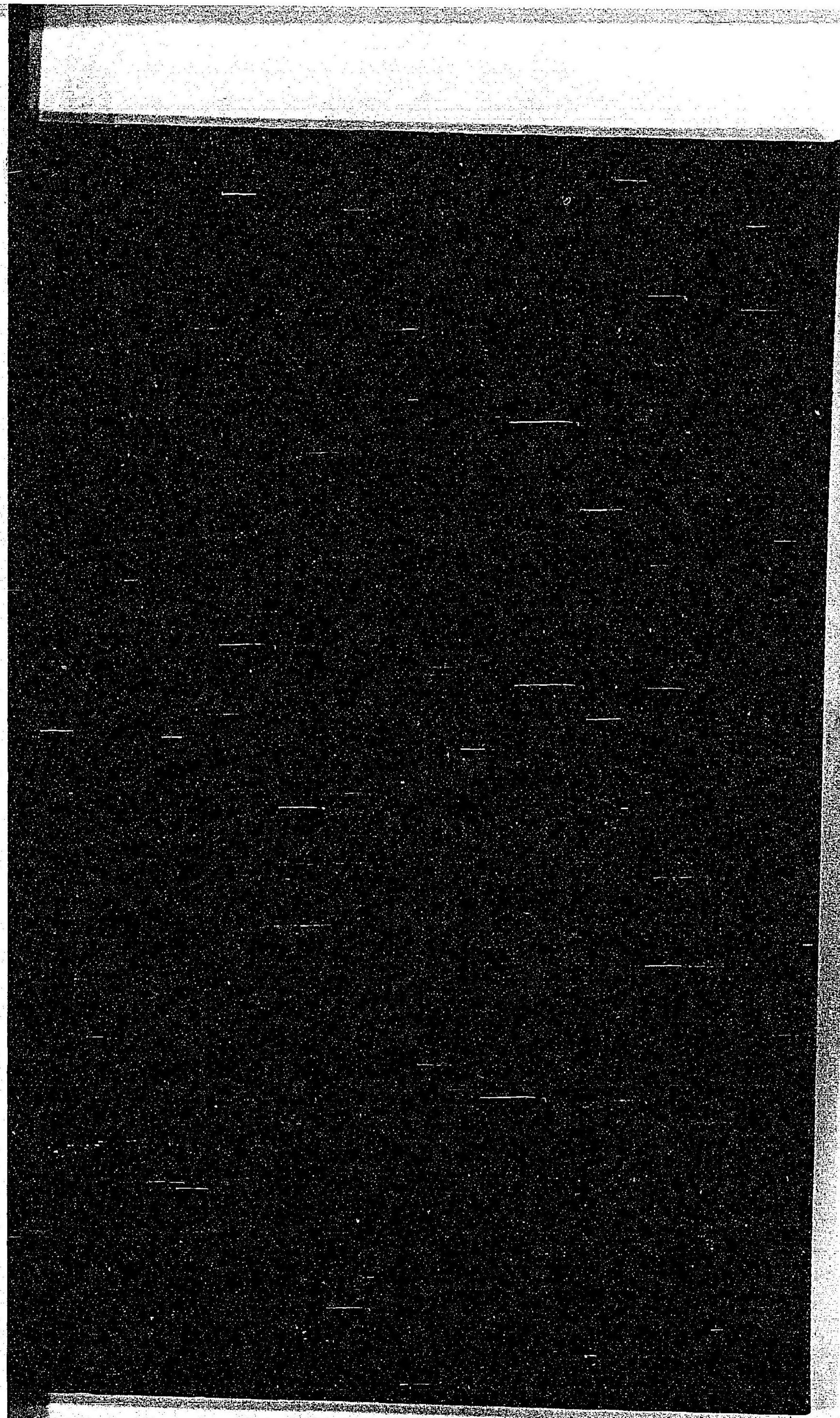
●平面三角法 立體幾何學 難問解義

全一冊 四六判美本 紙數三百二十二頁
正價 金五拾五錢
郵稅 金六錢

發行元 東京市橋本區三丁目番四〇番 博文館







320

60

